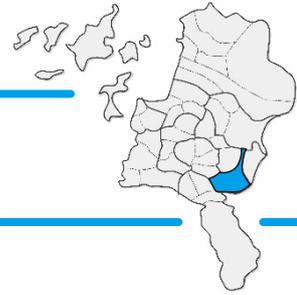


く め 久米地区

人口: 30,269人(高齢化率25.5%)
世帯数: 14,465世帯

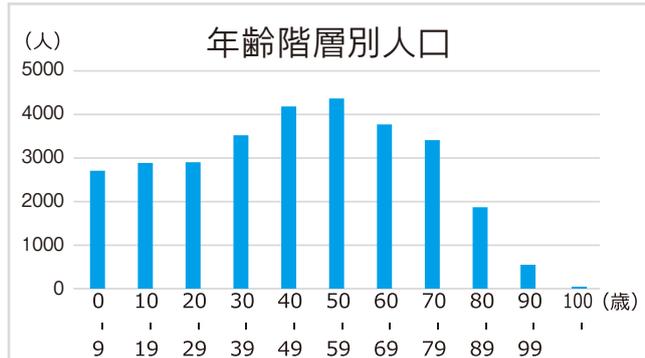


【地区の特色】

久米地区は、松山市の東部方面に位置し、国道11号の整備により交通の便がよくなったことから、人口が急増しており、松山市のベッドタウンとしての性格が一層濃くなってきている。また、地下にボーリングを打ちこみ温泉の開発に成功して東道後温泉郷としても知られている。



日尾八幡神社



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ◎公民館を中心として住民相互の繋がりを密に保った行事や諸活動が活発である <ul style="list-style-type: none"> ・公民館、自主防災、高齢クラブ、サロン活動が活発である ◎交通の利便性が良く、公共施設や生活関連施設等も充実している <ul style="list-style-type: none"> ・伊予鉄電車・バスが通っていて、相乗りタクシー(チョイソコおのくめ)がある ・小中学校、高等学校、高齢者施設、スーパー、コンビニ、病院等が多い ◎地域の自然や文化を活かした施設が整備され、それを活かした活動が盛んである <ul style="list-style-type: none"> ・里山公園があり、世代を超えて活動している ・4小学校、久米中学校、松山学院の児童生徒が地域の活動に関わり交流がある
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ◎少子高齢化、個人主義社会が進行してきている <ul style="list-style-type: none"> ・町内会への加入が減少している ・地域活動に参加する人が限られている ◎子どもや高齢者の活動が制限されている状況がみられる <ul style="list-style-type: none"> ・ボール遊びが制限されている公園が多い ・地域によっては交通手段がなく駅までが遠い ◎危険箇所や社会資源等を周知しきれていない状況がある <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源について知ってもらう機会がない ・山間部の一部に土砂災害危険箇所がある
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ◎実態に基づく効果的な支援の充実と展開が不十分である <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の実態把握と効果的な支援が難しい ・認知症者のみまもりが難しい ◎個人情報の入手と保護及び関係団体との情報共有が不十分である <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の入手方法の整備と管理の徹底 ・マンション等住民の安否確認が難しい ・災害時に関係団体との情報交換や役割分担が難しい ◎住居地により社会的弱者の生活が困難な状況がある <ul style="list-style-type: none"> ・通院や買い物等の日常生活が不便である ・改善するための手立てが不十分である

久米地区社会福祉協議会

<拠点> 松山市鷹子町740 松山市鷹子老人福祉センター内 2F TEL:089-975-2882

構成団体	地区民協・公民館・ふれあいタウンづくり協議会・町内会・町内会長会・町内連合会 自治会・母子福祉会・婦人団体連絡協議会・PTA・小学校・中学校・高等学校 松山南交通安全協会・自主防災組織連合会・消防分団・高齢クラブ連合会
主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回作成し、地域福祉に関する情報を発信するため町内会と連携し、広報連絡員を通じて全戸配布しています。
福祉交流会	登録している独居高齢者を対象に、毎年5月に「独居ふれあいお食事会」を開催しています。
災害時等MAP作製	要支援者名簿を基に災害時等に活用できるよう、個人情報の適切な取り扱いの上、住宅地図への転記作業を行っています。

独居高齢者みまもり支援

民生委員・児童委員が登録している独居高齢者に対する毎月の見守りの他、在宅福祉の向上と生きがいづくりに向けて、夏季と冬季に1回ずつ久米地区民協と連携し、お見舞い品をお届けしています。直接顔を見てお話しする事でコミュニケーションが取れ、暑さ寒さの時期の安否確認になります。“ありがとう”と言われるとお互いに嬉しい気持ちになり、活動を継続する励みになっています。



<地区社協が目指すもの>

久米地区社協は松山市鷹子老人福祉センター内に事務所を置き、久米地区全体の福祉に関する相談窓口になっています。2017年度には町ごとに福祉施設の一覧表を掲載した福祉マップを作成し、2022年度には内容を更新しました。2018年度から災害時に一人では避難の困難な高齢者や障がい者の方々がスムーズに避難できるように、要支援者への連絡方法や避難場所及び避難手段についての現行化作業を継続しています。また、子どもたちの登下校時の見守りも積極的に行い、小中学校との情報共有に努め、老若男女誰もが安心・安全に暮らしていける地域づくりの実現を目指しています。

地区の状況	■地区民協	41名	■町内会・自治会・区長会等	12団体
	民生委員		■高齢クラブ	10クラブ
	主任児童委員		3名	■子ども会
	■まち協の設立	平成26年度	■自主防災組織	12組織

市のベッドタウンとしての側面を持った地区です。子どもたちの登下校見守りや独居高齢者見守り支援などは全世代が住みやすい街づくりを目指した活動といえます。

また、過去に小野川の氾濫や地震などを経験していることから、防災に対する意識が高く、災害要支援者名簿作成や防災マップ作りなど防災への取り組みを「見える化」しています。さらに福祉交流会や暑中寒中見舞いなど地域内の人間関係を維持する重要な活動は、今後の防災や減災に役立つことでしょう。



うけな 浮穴地区

人口:9,230人(高齢化率30.3%)
世帯数:4,342世帯

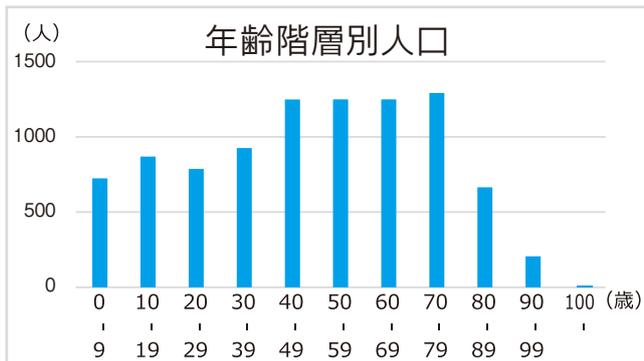


【地区の特色】

浮穴地区は、松山市の南部にあり東西約6.7km、南北は広いところで1.3kmと細長く、重信川と内川にはさまれた地形である。地区には伏流水と呼ばれる地下水の流水があり、全国名水百選に選ばれた杖ノ淵泉は親水公園として整備され、年間を通して大勢の人々が訪れている。近年は松山市で唯一、高速道路が開通し、急速に都市化が進んでいる。



松山インターチェンジの立体交差



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に子どもが積極的に参加していて近所の繋がりがあがる ・春祭りは、(井門・森松・南高井)各地区で行っている ・重信川の河川敷でスポーツや花壇、ウォーキング、サイクリングなどが楽しめる ・水が豊富で松山市の上水道の水源がある ・交通の要衝で高速道路[松山インターチェンジ]がある ・陸運局や軽自動車車検場、国土交通省重信川出張所、松山南郵便局などがある
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進んでいる ・若年層の流出 ・地区によっては公共交通機関が少ないので移動手段が少ない ・行事は多いが参加者が少ない(若い世代、男性) ・子どもの減少により、行事が出来なくなっている ・地域によっては高齢者が歩いて行ける距離にスーパーがない ・ていれぎ(川の植物が無くなった) ・水害の可能性(内水氾濫を含む)があるが、水害時に避難できる高台が無い
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化(地区の世話人等の高齢化、後継者問題) ・公共施設の老朽化、高齢者が公民館の2階に上がれない(エレベーター希望) ・老老介護、老人性うつ病の増加、高齢者の独居世帯の増加⇒孤独死 ・公共交通機関が少ない、ループバスを充実させて欲しい ・核家族化している。子供が外で遊ばなくなっている ・空き家問題⇒治安が悪くなる ・洪水時の要支援者等への対策は急務である ・新型コロナウイルス対策以降、高齢者のサロンや集会の参加者が少なくなった

浮穴地区社会福祉協議会

構成団体	南高井町・森松町・森松団地・森松町町内会・井門町・公民館・共同募金会 地区民協・自治会・交通安全協会・自主防災組織連合会	
主な取り組み	活動内容	
福祉だよりの発行	年1回2月発行・大口共同募金者の掲載	
サロン交流会の開催	毎年3月公民館の文化祭で作品の展示・演芸の発表・お茶の接待	
福祉学習会の開催	年1回 一般地区住民対象	

地域のために熱く議論

地区社協役員が疑問に思うことや地域の話題から「地域で出来ることとその対策」について意見を出し合い、地区の情報を共有します。



<地区社協が目指すもの>

地区の安心・安全な環境づくりに努めましょう。

善意の声をかけ易く、声をかけられ易い環境をつくりましょう。

地区の行事には参加し、交流を深めましょう。

生活の自立への支援に協力しましょう。

地区の状況	■地区民協	13名	■町内会・自治会・区長会等	5団体
	民生委員 主任児童委員		2名	■高齢クラブ
	■まち協の設立	—	■子ども会	3団体
			■自主防災組織	5組織

自主的に河川敷を活用した花壇の整備や清掃活動を行うなど、住民が主体となった地域活動ができる地区です。また、地区社協役員が定期的に地域情報の共有や課題検討を行う場があることも地区の強みの一つといえます。さらに地域行事が多く、子どもの積極的な参加がある一方で、参加者の数が減少しつつある課題を抱えています。子どもらの意見や要望に耳を傾けるなど地域や当事者の実情にあった取り組みが期待できる地域だといえるでしょう。



おの 小野地区

人口: 17,266人(高齢化率31.8%)
世帯数: 8,029世帯



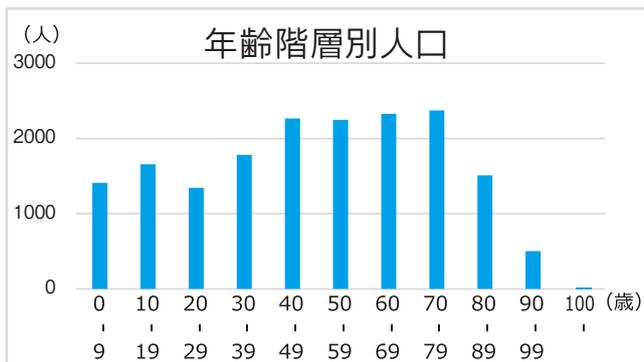
【地区の特色】

松山市の最東部に位置し、小野町、北梅本町、南梅本町、平井町、水泥町の5町から構成され、伊予鉄道横河原線沿線という好条件と病院や商業施設が備わった地域でありながら都会らしくもなく、そして程よい田園風景の残る地域で、近年急激に人口が増加している。

1公民館、1小学校、1中学校の地域性から住民同士の連帯感が強く、義理と人情がまだまだ残っている地域である。



小野地区の全景



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロン小野(月～金の毎日型) ・公民館や小野支所などが社協に協力的 ・サロンに各団体が集まり人材確保が容易、男性協力会員のサロン当番開始 ・自然が豊か ・包括支援センターによる出張相談 ・小学校からそのままのメンバー(生徒)で中学校に上がる ・地域全体で子どもの見守り、健全育成 ・子どもの挨拶が立派 ・犯罪が少ない ・災害が少ない ・地域の団結力 ・スポーツに熱心 ・地域役員の連携が密 ・相乗りタクシー(チョイソコおのくめ)48名利用
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動で若い人が少ない(協力会員も高齢化している) ・小野サロンの立地が地区の中心ではない ・小野サロンの施設の劣化 ・道路、通学路が狭い ・高齢化率約32% ・高齢者の交通不便 ・企業が少ない ・飲食店が少ない ・農業に従事する人の減少 ・災害の不安(山地部) ・スポーツ施設が少ない ・猪、サルなどの害獣被害の拡大 ・行事のお世話人さんなど後継者不足
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が年々高くなっている ・独居高齢者(特に男性高齢者)増加傾向 ・若い人、男性の福祉に対する関心が薄い ・認知症の人が増えている ・自力で移動できない人の増加 ・若い女性が勤めに出ているため活動に参加できない ・入院できる病院が少ない ・健康のため高齢者によるボランティア活動への参加促進 ・避難情報が出てても行動しない人が多い

小野地区社会福祉協議会

心響きあう♥与力の里

<拠点> 松山市水泥町972-1

TEL / FAX: 089-976-1200

構成団体	地区民協・公民館・分館・PTA・中学校・小学校・学識経験者 平井商店会・社会福祉法人	
主な取り組み	活動内容	
福祉だよりの発行	年に2回12,000部を作成・全戸配布し、地域活動のPRや福祉に関する情報を発信しています。	
福祉のつどい	毎年4月に福祉施設と合同でミニ運動会を開催します。会場の小学校の体育館には約300人の地域住民(サロン参加者・幼稚園児)が集います。	
福祉講座の開催	年1回、高齢者の身体や認知症など、生活に関する身近なテーマでの開催を目標として実施しています。	

ふれあいサロン小野(月～金の週5回)

平井商店街の一角に地区社協の拠点でもある毎日型のふれあいサロン小野があります。常時、協力会員がおり、プロから講習を受けたコーヒーの提供や今後に向け、手作りカレーの再開などもあり、地域住民が気軽に集える場となっています。介護予防体操や手芸、囲碁や将棋も楽しめます。



<地区社協が目指すもの>

小野地区では地域の住民が気軽に集える憩いの場を作ることを目的とし、平成16年に平井商店街の空き店舗を活用して地区社協の事務所とサロンを開設、平日(月～金)週5日運営を行っています。また、地域サロンの拠点として役割も担っています。

当初より「心響きあう♥与力の里」を基本理念に、地域の各種団体や施設等と連携しながら地域住民が安心して住みよい、住んで良かったと感じる地域を目指し、今後の高齢化社会に向け若い世代への活動拡大を目指します。

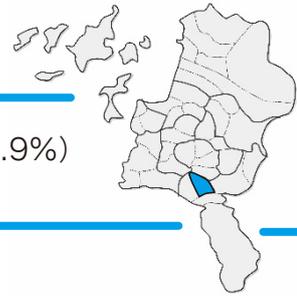
地区の状況	■地区民協	24名 2名	■町内会・自治会・区長会等	23団体
	民生委員		■高齢クラブ	3クラブ
	主任児童委員		■子ども会	15団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	17組織

地区には毎日型のふれあいサロンがあり、毎日の食事提供や参加者の趣味活動など多様な内容となっています。毎月行われる管理運営委員会が主に地区社協内の各部会の報告や情報共有、意見交換を行いながら常に活動内容のブラッシュアップを図っています。また他機関の役員を兼ねる参加者も多いことから、この会が他団体との連携を容易にしているというメリットもあります。こうした取り組みが他の団体や人々とつながり、さらに発展する地域福祉活動ができる地域だといえるでしょう。



石井東地区

人口: 29,851人(高齢化率25.9%)
世帯数: 14,105世帯

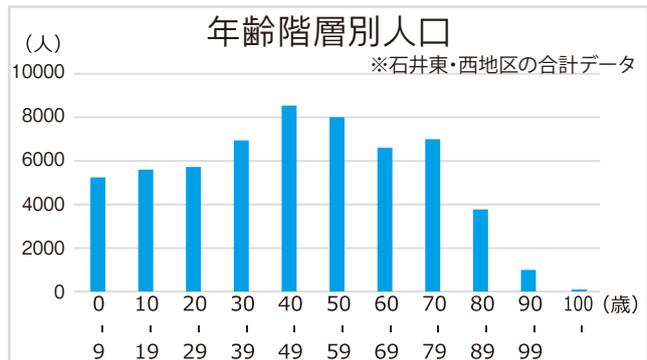


【地区の特色】

石井東地区は、市街地に近く天山・東山などの緑や温泉などの自然環境にも恵まれ、星岡古戦場・縦湊城跡など多くの史跡、文化財が残っており、肥沃広大な耕地をもとに穀倉地帯として発展してきた。また、毎年旧暦の正月七・八・九日の三日間に渡って行われる椿祭りでは、伊予豆比古命神社に多数の参拝客らが訪れる。近年では急速に市街化が進み、人口約3万人を数え、市内で最も発展を遂げている。



毎年賑わう椿まつり



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が多い(約3万人)・地域福祉サービス事業の活動が充実している ・協会会員約460名、民生委員・児童委員の連携が取れ活動が活発 ・地区内各団体との連携が取れている ・社会資源として、すべての面で恵まれている(介護事業所、南警察署、南消防署等) ・住民の活動が活発である・高齢クラブがほぼすべての町にある ・生活関連産業もたくさんある・交通の便がよい・松山インターチェンジがある ・稼働年齢層が多い・サロン17ヶ所、子育て支援センター2ヶ所で活動が盛ん ・各集会所にインターネット環境が整備されている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に避難する場所が少ない(約3万人が小学校2校、中学校1校のみ) ・川幅が狭いため、大雨時、氾濫の恐れがある ・人口に対して公園、スポーツ施設が少ない・人口に対して支所、公民館が狭い ・支所、公民館への交通手段が不便 ・将来的にヘルパーさんが関わる時間が短いと困る高齢者が増えるのではないかと懸念 ・交通渋滞が起きやすい・道が細く溝が多い箇所がある ・集会所の老朽化問題
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口約3万人に対して、高齢者が多い ・労働人口が多いので、支える側の絶対数が少ない ・人口に対して公民館、支所、その駐車場が少ない ・人口に対して避難場所が少ない ・交通の不便(一部の地域においては相乗りサービス「チョイソコいいい」の運行を実施) ・川幅が狭い為大雨時、氾濫の恐れがある・高速道路陸橋下の空き地の活用

石井東地区社会福祉協議会 安心を笑顔で支える「人つなぎ夢つむぎ」

<拠点> 松山市居相1丁目8-26石井支所2F

TEL / FAX:089-904-4874

構成団体	地区民協・公民館・まちづくり協議会・町内会・総代会・高齢クラブ連合会	
主な取り組み		活動内容
福祉だよりの発行		「夢つむぎ」として年3回12,000部を作成し、全戸配布。地域福祉に関する情報を発信しています。
地域の集いの場	IMAカフェ 居相ふれあい農園 星ぐるま	・月に1回日曜日に開催、地域で採れた野菜やコーヒーなどの提供 ・誰もが気軽に集える場として、毎週日曜日に野菜を育てています ・独り暮らしの高齢者へのお弁当作成及び配布による見守り
避難行動要支援者名簿作成		災害時等の避難誘導の際に活用出来るよう、世帯別状況を色分けし、毎年更新して名簿からMAPを作成します。

福祉交流会(10月頃)

地域の独居高齢者と障がいのある「おふくの会」の方約200名との交流会を開いています。手作りのちらし寿司を用意して、民生委員・児童委員、みまもり員による工夫を凝らした演芸を披露しています。また、参加者全員に配布される絵手紙を毎年楽しみに集めていらつしゃる方もいます。



<地区社協が目指すもの>

安心を笑顔で支える「人つなぎ、夢つむぎ」のコンセプトのもと、地域住民が主体となって互いに支え合う小地域福祉活動の推進に努めます。地区内には65才以上の高齢者の内、約4割3,500人(障がいのある人を含む)の災害時要支援者がおり、今後増え続ける要支援者を支える、支え合える「住民力」「地域力」の育成をめざします。超高齢社会の中で共生社会実現のためには向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりが必要であり、一人ひとりが支えてこそ意義がある事を啓発すると共に地域に密着した福祉活動を推進していきます。

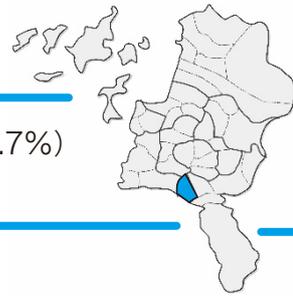
地区の状況	■地区民協	43名 3名	■町内会・自治会・区長会等	21団体
	民生委員		■高齢クラブ	16クラブ
	主任児童委員		■子ども会	10団体
	■まち協の設立	平成23年度	■自主防災組織	19組織

地区の特徴としては、市街地化していることです。そのため、福祉交流会や地域の通いの場(IMAカフェ、居相ふれあい農園、星ぐるまなど)多様な地域福祉活動が行われています。また、地区社協協力会員が多く、向こう三軒両隣の顔の見える関係性構築を推進することにより、支え合う小地域活動が展開されています。この活動を通して、災害時要支援者名簿策定や名簿の「見える化」としてのMAP作りなど災害への備えにも取り組んでいます。これからの活動を通し顔の見える関係構築により、地域福祉活動がより活発に行われることが期待できる地域だといえるでしょう。



石井西地区

人口: 28,810人(高齢化率25.7%)
世帯数: 14,447世帯

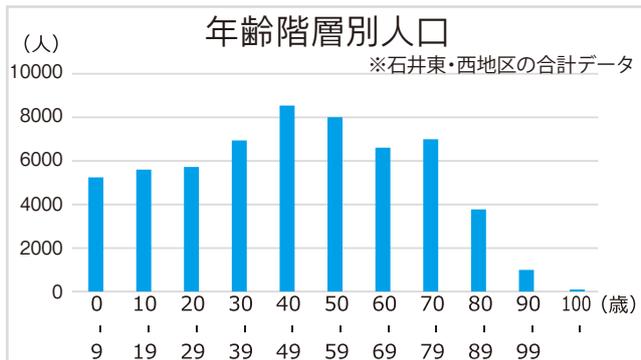


【地区の特色】

石井西地区は、松山市の南部に位置し、北部を西に流れる石手川・小野川、南部を西に流れる重信川・内川に囲まれた肥沃な穀倉地帯として発展してきた。近年、急速に市街化が進行したのは地理的・社会生活上の諸条件にも恵まれているためである。特に、地区の中心部に市道千舟古川線(古川はなみずき通り)や市道北久米和泉線が整備され、市民の散歩道として利用されるほか、松山市保健センター南部分室・南部児童センターが開所され、多くの市民に利用されている。



松山市はなみずきセンター



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、教育、買い物等、生活関連は揃っていて便利で人気のエリアである ・閑静な住宅街が多い ・高齢者の社会参加が活発である ・道路網が整備されており、市内市外移動は便利である ・子育てしやすい町づくりに取り組んでいる ・高齢者に優しい取り組みをしている ・近隣高校の生徒が南部児童センターで地域の子供たちと交流している
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の交通機関がバスしかないため、車の移動が多く道路の渋滞がはげしい ・マンション、新興住宅が増え、人と人の関わりが希薄である ・高齢化が進んでいるが対策が進んでいない ・地域によっては水害が起きた時に避難出来る場所が限られている
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増え、地域社会への参加が少ない ・町内への関心が遠のいている ・地域によっては交通機関が限られており、移動が困難な高齢者等も居る ・近隣の間人間関係が少なくなっている ・世代間の交流がなくなっている ・子供の減少、遊び場がなくなっている ・若い世代の町内行事等への参加が少ない ・町内の担い手(町内の役員や民生委員など)がいない ・障がい者、独居、母子、父子家庭など個人情報保護があり、手助けしにくい ・人口に対して集会所が少ない ・駐車場がない集会所があり、利用づらい ・多くの人に利用してもらえよう集会所をバリアフリーにしてほしい ・町内放送、防災無線が聞こえにくい ・住民の防災意識をひき続き高めていく必要がある

石井西地区社会福祉協議会 石井西 やすらぎのまち 愛の町

<拠点> 松山市居相1丁目8-26石井支所2F TEL:089-956-0248 / FAX:089-958-9962

構成団体	地区民協・公民館・町内会・まちづくり協議会		
主な取り組み	活動内容		
福祉だよりの発行	年3回発行。地区社協活動についての周知啓発と、イベントの参加募集を実施、若い世代からの参加者の拡大に努めています。		
災害に備えた取り組み	避難行動要支援者名簿の作成と更新及び「無事ですフラッグ」を利用した安否確認を防災訓練時に実施しています。		
高齢者の社会参加や交流の促進	ふれあい・いきいきサロン(緩和型含む)、地域交流サロン、福祉交流会の開催をしています。		

子育てパパ&ママのための防災講座

令和4年度からスタート。乳幼児を抱えてがんばっているパパやママのために、子供がいる家庭に特有の防災対策や避難生活について、気軽に参加できるオンライン講座で情報を提供しています。

また、夏休みには、幼児から小学生・保護者を対象に、ゲームを通じて防災について学ぼうと『親子防災講座』を開催しています。



<地区社協が目指すもの>

石井西地区では、コロナ下においてもオンラインの活用等、社会情勢に左右されることなく地域のつながりを切らさない方法を考え、活動してきました。また、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」に向けて、認知症サポーター養成講座、認知症キッズサポーター養成講座及び地域での声かけ訓練にも継続して取り組んでいます。こういった活動は災害時の助け合いにもつながっていくと考えています。今後も、地区の関係機関や諸団体との連携・協働を大切に、住民誰もが心豊かに暮らし続けることができる地域づくりを目指します。

地区の状況	■地区民協	44名 3名	■町内会・自治会・区長会等	21団体
	民生委員		■高齢クラブ	16クラブ
	主任児童委員		■子ども会	10団体
	■まち協の設立	平成23年度	■自主防災組織	19組織

子育て世代が多い地区であるため、認知症サポーター養成講座のほか、オンラインでの子育てパパ&ママのための防災講座、「無事ですフラッグ」を利用した安否確認など世代間共通の課題で尚且つ、地域課題をテーマとした取り組みが活発であるといえます。これらの取り組みをさらに発展させ子どもから高齢者まで、多世代間が参加する防災・減災活動の場の創造が期待できる地域だといえるでしょう。



く たに 久谷地区

人口:9,592人(高齢化率37.6%)
世帯数:4,874世帯

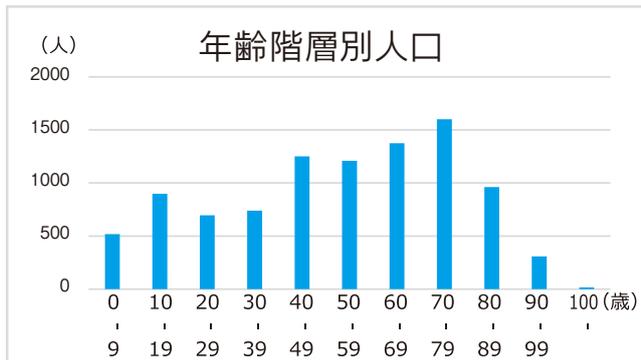


【地区の特色】

久谷地区は、松山市の南部に位置し、緑豊かな田園地帯である。文化財などの史跡伝説の町でもあり、また、昭和38年に決議された文教宣言に基づき、生涯教育の推進をモットーとしている。伝統文化の継承や仲間づくり、青少年の健全育成を図り、また、近隣愛を高めながらふるさとの再発見活動を展開している。



重信川からのぞむ久谷



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人々が協力してくれる ・おせっかいの文化がある ・昔からの集落なので隣近所3代に渡って顔見知り ・元気な高齢者が多い ・町内会のシステムが確立している ・自主防災の意識が強い ・地区の若い衆が今後は憂いて活動をしている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・家と家が遠い ・公共交通機関がなく生活に不便 ・市街化調整区域で新しい住宅が建設できない ・空き家が多い ・高齢者を雇う事業所がない ・80歳代以降の年金額が少ない(農業従事のため) ・少子高齢化が進んでいる ・過疎と高齢化に伴い労働力が低下し、行事等の共同作業が困難になりつつある
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、独居高齢者が多い ・空き家が多い ・子どもが減っていて伝統文化の継承が難しい ・高齢化により、地区の行事での共同作業が困難になりつつある ・買い物、通院の交通が不便

久谷地区社会福祉協議会 ふれあい、助け合い、おもてなしの里「くたに」

構成団体	地区民協・総代会・公民館・高齢クラブ連合会・女性連絡協議会 青少年健全育成連絡協議会・協力会・PTA・中学校・小学校・交通安全協会 福祉施設・支所
------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回7,000部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するため全戸配布しています。
年賀施設訪問(1月)	毎年約50箱のミカンを久谷地区にある高齢・障がい者施設へお年賀として贈呈しています。
福祉学習講座の開催	地域の暮らしに関するタイムリーな話題について、専門分野の方を講師にお迎えして開催しています。

交流会の開催

子どもや保護者、ボランティア等が世代を越えた交流会を行っています。レクリエーションや仲間づくり、情報交換や勉強会などを通して、子どもの成長を見守り互いの成長を目指しています。



<地区社協が目指すもの>

少子高齢化が進み、現在、高齢化率は37%を超えています。今後高齢者のみの世帯が増えてくる事が懸念されるこの地域では“ふれあい、助け合い、おもてなしの里「くたに」”を基本理念とし、地域で誰もがいつまでも安心して心豊かに暮らせる街づくりを目指して、今まで以上に地域内交流を盛んにし、伝統文化等の継承と仲間づくり、青少年健全育成と三世代の交流を深め、近隣愛と地域愛のある活動を進めていきます。

地区の状況	■地区民協	18名 2名	■町内会・自治会・区長会等	14団体
	民生委員		■高齢クラブ	8クラブ
	主任児童委員		■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成28年度	■自主防災組織	29組織

お接待の文化が浸透し助け合いの精神や共同体としての住民相互の絆が強い地区です。地域内には福祉施設が多く「年賀施設訪問」など定期的な交流を地域住民らと図っています。このお接待の精神を背景とした住民間の‘つながりの強さ’はまさに地区の財産だと言えるでしょう。今後は、交流会などを通じた活動の展開により、次世代の担い手育成など世代間のプラスの連鎖が期待できる地域です。

